

特集●地球温暖化対策—京都の約束

地球温暖化対策に関する世界の動向と日本の役割—京都議定書の発効から洞爺湖サミットを経て

環境省地球環境局地球温暖化対策課 徳田 博康・他

地球温暖化のメカニズムと将来予測——(独)海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター 時岡 達志

地球温暖化対策の評価—アジア地域の対策の重要性を踏まえた提言

国立環境研究所地球環境研究センター 甲斐沼美紀子

地球温暖化のわが国への影響と影響軽減策の展望——(独)国立環境研究所 脇岡 靖明

地球温暖化防止に向けた市民活動——NPO 法人気候ネットワーク 浅岡 美恵

地球温暖化—われわれはどこに向かっているのか——大阪大学社会経済研究所 西條 辰義

地球温暖化対策としての森林管理の意義と課題——(独)森林総合研究所温暖化対応推進室 松本 光朗

バイオ燃料—地球温暖化対策としての有効性への疑問と、食糧等との競合問題

NPO 法人「環境・持続社会」研究センター 佐久間智子

省エネルギー技術の開発と普及に関する課題と展望——(財)電力中央研究所・社会経済研究所 永田 豊

●視点

ビタミンDと疾病予防—最近の話題——新潟大学大学院医歯学総合研究科地域予防医学 中村 和利

あとがき

今月の特集に際して、執筆をお引き受けいただいた先生方から続々と原稿が届く頃、中国における牛乳へのメラン混入事件のニュースが新たに飛び込んできました。

さらに、度重なる食品偽装問題に続いて、またも経済大国日本において事故米が流通・使用されていたお粗末な実態も明らかになっています。

先月の特集タイトル「揺らぐ食品への信頼」に続いて、今月の「日本の食を守るか?」は、まさに国民の切実な声であり、その先には「何とかして食を守りたい」という消費者の願いが込められていると思います。

一方で、冷凍ホウレンソウの残留濃度違反事件において、残留基準値違反の倍率のみが報道されたため、消費

者に対し毒性があるかのような不安が誘導されたという佐藤先生のご指摘や、山田先生が言われる「リスクに基づく措置と法律に基づく措置の違い」など、わが国におけるリスクに関するコミュニケーションの不足を痛感します。

先日、自宅前で某生協のお兄さんに声をかけられ、有機野菜の宅配を勧められました。以前は、一般にスーパーマーケット等でできるだけ安いものを買う傾向がありましたが、今は少々高値でも産地直送に関心を持つ人も増えてきたのでしょうか。

東京に住んでいる私にとっては、田舎に帰った時に義理の両親が持たせてくれるお米や野菜のありがたさをしみじみとかみしめる今日この頃です。(品川靖子)

公衆衛生(第72巻 第11号) 2008年11月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,415 円(本体 2,300 円+税 5%) (2008 年々ぎめ予約購読料 28,200 円 ※配送料弊社負担)

発行: 株式会社 医学書院 代表者 金原 優

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

本誌編集室直通 TEL (03) 3817-5718 FAX (03) 3815-7802

販売部直通 TEL (03) 3817-5659・5660 FAX (03) 3815-7804

E-mail: koshu@igaku-shoin.co.jp 振替口座 00170-9-96693 番

印刷所: 三美印刷(株) TEL (03) 3803-3131

広告申込所: (株) 東広社 TEL (03) 3409-8803/デザイン: デザイン・プレイス

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo

© 2008, Printed in Japan.

・ 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化権を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。

・ **JCLS** 《創日本著作出版権管理システム委託出版物》

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつと事前に《創日本著作出版権管理システム(03-3817-5670)》の許諾を得てください。

・ 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

・ 公衆衛生 URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/koshu/>

編集顧問

多田 羅浩三 大阪大学名誉教授・放送大学教授

林 謙治 国立保健医療科学院

編集委員 (50 音順)

阿彦 忠之 山形県健康福祉部・衛生研究所

品川 靖子 東京都文京区文京保健所

高島 敏雄 大阪大学大学院医学系研究科

西田 茂樹 福島県衛生研究所

編集室通信

中国産冷凍餃子事件をきっかけに、「食のテーマでいこう」と本誌編集会議にて前号と今号が特集企画されたのが今年の 3 月、4 月、まさか半年後、さらに事故米の大問題が起こるとは。今、食の問題はピークを迎えている感がありますが、振り返ると例えば雪印のときも、狂牛病のときも、ピークと感じていたような、食の問題はまだまだ氷山の一角、これからも後を絶たず、隠れていた闇が次々と明るみに出てくる気がします。

食はいのちの基本、作り手の顔がわかることが一番安心です。辿り着く安心の源は、自給自足、地産地消、手作りの料理でしょうか。いのちに直結する食だから、危険を感じ信頼できないものには、消費者として毅然と「NO」を言いたいし行動したい。(野中)

(担当/野中・今田)